

東日本大震災への対応と、 緊急輸送体制の改善

一般社団法人 東京都トラック協会
平成26年8月5日

東日本大震災に係る救援物資輸送実績

- ◎ 本部出動台数（東京都の要請） 374台
 支部出動台数（都内区市の要請） 230台
 合計 604台
- ◎ 出動期間：平成23年3月11日～
 平成24年4月19日

東日本大震災における、 備蓄倉庫での物資搬出作業の様子



ばら積み、ローラーでの横持ち作業は、
多くの人員が必要となる。



東京都との、
「災害時における東京都災害備蓄倉庫での
荷役作業等に関する協定」締結と、
その後の対応

- ◎ 東日本大震災の経験を踏まえ、東京都と協議を重ね、平成24年10月31日付けで「災害時における東京都災害備蓄倉庫での荷役作業等に関する協定」を締結
- ◎ 協定締結を受け、平成25年1月に協定で指定された都備蓄倉庫を地元の会員事業者とともに視察し、東京都と、災害時に限られた人員で、スムーズに荷役作業を行うための改善点について意見交換をおこなった。

「立川防災センター備蓄倉庫 における荷役作業の確認」

- ◎ 平成25年2月18日に倉庫設備の改善による省力化・時短化の効果を確認するため、「立川防災センター備蓄倉庫における荷役作業の確認」を実施。
- ◎ ばら積みの物資を、備蓄倉庫既存のローラーのみを使用し、貨物車に積載する現行設備での荷役作業と、パレットに積んだ物資をハンドリフトにより横持ちし、貨物車に積み込む荷役作業での、作業人数・作業時間の比較を行い、設備の改善による効果を確認した。

搬出作業の省力化・時短化のため、 東ト協「災害救助物資備蓄倉庫」 の保管状況を改善



改善前の状況

限られたスペースでの保管数量が優先されたため、物資が天井近くまで積み上げられ、作業スペースの確保も困難な状況



改善後

作業員が無理無く手が届く高さにとどめられ、パレット保管とハンドリフト導入により最低限の人員での作業が可能となった。



備蓄物資を全てパレット保管とし、ハンドリフトを配備することで、パレット1枚あたり1名で横持ち作業を行うことができ、物資の取り下ろし作業と貨物車への積み込み作業を1箇所ですべて行うことができるため、災害時の限られた人数での荷役作業に対応することができるようになった。